茨木のり子の詩情世界／続編

茨木のり子2025@那覇

「それを選んだ」

――テンブスホール

茨木のり子

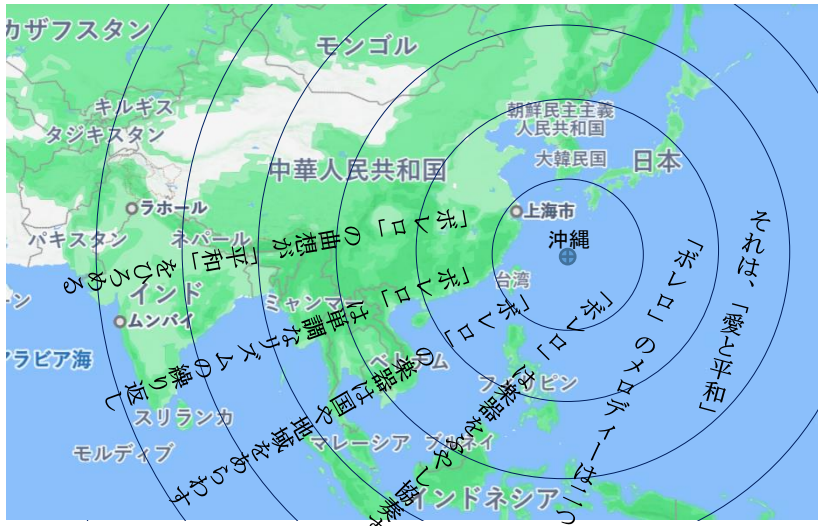
❐主催　茨木のり子２０２５ 実行委員会
❑共催　（一社）洸楓座
❐後援　沖縄タイムス社、琉球新報社、ＮＨＫ沖縄放送局
沖縄県知事公室（平和推進）、不屈館、
対馬丸記念館、法政大学沖縄文化研究所、
東京沖縄県人会、国際善隣協会、朗読と文学の会

第二部　平和と和平、その礎

平和の伝播

青柳浩生

ラヴェルのボレロは、
平和を波動として伝えることが出来る
単調なリズムで繰り返し、丁寧に
そして、クライマックスとして共感を生む
それは、「愛と平和」。

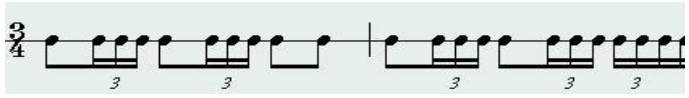


Joseph
Maurice Ravel
(1875-1937)

LOVE & PEACE

一色 宏
(1937-)

ラヴェルは今年が生誕150年。茨木のり子は来年生誕100年。単調なリズムこそが、平和の礎。



❑発行:一般社団法人 洸楓座　❑編集：青柳浩生
❑WEB：http://www.kofuza.com/html/event.html　❑Mail: ksato@kofuza.org
❑Tel: 090-1268-5882 ❑発行日：2025年12月13日 ❑売価：500円（100部限定）

序

沖縄は、いまから８０年前の沖縄戦で、大きな犠牲と深い傷を強いられました。戦後もなお重い負担を背負ってきました。この地に立つと、平和は、抽象的な理念ではなく、現実を背景とした具体的な願いであり、「切実な希望」であることが分かります。平和を願う心は、沖縄だけではなく、本土各地、アジアの国々、そして世界中の人びとに共通する、私たちの根源的な願いであると言えます。

詩人・茨木のり子は、自身の戦争体験を通じて『対話』を契機として戦争のない社会を希求する静かで強い意志を詩篇として遺しました。その詩情は、時代を越えて、今を生きる私たちに平和の意味を問いかけてくれます。

今回の『茨木のり子２０２５@那覇／「それを選んだ」』は、沖縄での２回目の企画であり、〝現在〟の息づく場所で開催されます。過去を受けとめ、現在を見つめ、未来を選び取るために「平和」について問いかけ、答えを見つけだす時間となることを願っています。沖縄から、平和の大切さが、世界へ広がっていくことを心より望みます。

企画　青柳浩生（佐藤建吉）

２０２５年１２月１３日

LOVE & PEACE

次第

○日時　２０２５年１２月１３日午後１時～５時半
○会場　てんぶす沖縄・テンブスホール
開場　午後０時半　開会　午後１時

総合司会　　まーちゃん（小波津正光）

第一部　茨木のり子と平和
❐うちなーぐちによる朗読　神田雪枝
島唄＆三線　石川陽子
❐弾き語り　引田香織
❐朗読とトーク　山川建夫

第二部　平和と和平、その礎
❐平和談義
『食こそ平和への安全保障』　せやろがいおじさん
❐平和シンポジウム『永続平和のために』
コーディネータ　まーちゃん
新聞　當銘 悠（沖縄タイムス社）
滝本 匠（琉球新報社）
映画　寿大 聡（「満天の星」監督・俳優）
ミュージアム　平良次子（対馬丸記念館）
❐平和の伝播　青柳浩生（主宰者）

閉会　午後５時半予定

#茨木のり子

茨木のり子、本姓・三浦、１９２６年（大正１５年）６月１２日 - ２００６年（平成１８年）２月１７日）は、日本の詩人、エッセイスト、童話作家、脚本家。結婚前は、宮崎圀子。三浦安信（医師）と１９４９年に結婚。

１９５３年５月に「詩学研究会」の仲間の川崎洋と同人誌「櫂」を創刊。創刊号は川崎洋・茨木のり子の二人。二号から谷川俊太郎、三号から吉野弘、舟岡遊治郎、四号から水尾比呂志が参加、その後は中江俊夫、友竹辰、大岡信などの詩人が参加。

主な詩集に、『対話』『見えない配達夫』『鎮魂歌』『自分の感受性くらい』『倚りかからず』ほか。戦時下の女性の青春を描いた代表作の詩「わたしが一番きれいだったとき」（１９５８年刊行の第二詩集『見えない配達夫』収録）は、多数の国語教科書に掲載されている。

来年の２０２６年は、生誕１００年、そして没後２０年の記念の年にあたります。

#茨木のり子２０２５@那覇　実行委員会

委員長／佐藤建吉、副委員長／仲本賢悟・久保田賢三、事務局長／西川浩司、監事／佐藤真理

#テンブスホールアクセス

沖縄県那覇市牧志３－２－１０
https://tenbusukan.jp/#access

主催者トーク

沖縄で茨木のり子の詩を題材にした行事を行う意義について

佐藤建吉

沖縄で茨木のり子の詩を題材にした平和イベントを開催することには、次のような意義があると考えています。

茨木は著書『うたの心に生きた人々』で沖縄出身の詩人・山之口獏を紹介しました。また比嘉実(元・法政大学沖縄文化研究所所長)が、茨木の詩に感銘を受け、『地球・生命・沖縄を考える―茨木のり子著『倚りかからず』を読む』を著したことの縁から、彼女は早稲田大学で「おもろそうし」を学びました。「おもろ」とは「思い」を意味し、おもろまち駅の名にも象徴されるように、〃悲しい歴史を越えて平和に暮らしたい〃という県民の願いを宿す言葉です。

茨木の平和への思いは戦中戦後の体験に根ざしています。ひめゆり学徒隊より三歳年上の彼女は、『はたちが敗戦』で「日本は沖縄を犠牲にして戦争を終えた」と述べ、この痛切な認識が反戦、希望、平和を求める詩作に結びつきました。沖縄の人々が抱えてきた犠牲、希望、平和への祈りを、茨木は言葉として受け止めています。

沖縄で茨木の詩を読み語り合うことを昨年の平和祈念資料館での続編として、今年もその思いを共有し、共感の輪を広げたいと願っています。沖縄のウチナンチュの人々の思いと、本土のヤマトンチュの人々の思いを繋ぎ合わせ、共に平和を願う心を確かめることが、この地で取り組む意義であると考えています。

企画者トーク

「言の実」の意味

青柳浩生

昨年の第1回行事では「言の実」という言葉を主題に掲げました。一般的ではない言葉ですが、今回も趣旨として大切にしていますので、簡単に説明いたします。茨木のり子の詩集には『茨木のり子集言の葉1・2・3』(ちくま文庫)があり、詩を言葉として残す意味からふさわしい題名と言えます。「言の葉」は紙に記された文字を原点とし、消えやすい文字を石に刻んで文化を残してきた歴史もあります。言葉は人間のコミュニケーションにも欠かせません。

「言の実」は、文字や言葉を残すだけでなく、詩や文章に込めた内容を現実の暮らしや生き方に〃実らせたい〃という思いから、私が作った言葉です。「結実」とい言葉が示すように、実は種となって新たな芽を生み、次の世代へ受け継がれていきます。葉が枯れて養分となるのに対し、実は未来を育てる力を持っています。

こうした考えから、「平和」「平和祈念」「和平」といった言葉の意味を現実に結びつけたいとの願いを込め、「言の実」という語を用いました。今後「言実」として広まれば幸いです。近年よく使われる英語のアウトカム(成果)にも通じる概念と言えるでしょう。

「言の実」のシンボル写真

#佐藤建吉(&青柳浩生)

茨木のり子の夫と母の出身地で、自身も眠る墓所のある鶴岡市は、佐藤(&青柳)の出身地。「金属疲労のメカニズム」で工学博士取得(元千葉大学准教授)。金属疲労には結晶の転位が関係しているが、愛と平和のある社会の広がりには茨木のり子の詩情詩趣が大事と説くソシオエンジニア。「できる状況づくり」を提唱し、〈課題〉を〈チャレンジ〉にする。(一社)洸楓座代表理事。

#一般社団法人 洸楓座(こうふうざ)

法人名の洸は水力と太陽光を、楓はバイオマスと風力を、座は地熱を漢字のヘンとツクリから意味づけて、自然エネルギー推進を意図して命名。その宝庫である地方が疲弊しているので、地域快活を総合的プロデュースのため、I・K・ブルネル、ローカル鉄道応援酒「鐵の道」、まちなか大学院、茨木のり子などの活動を展開している。
http://www.kofuza.com

#洸楓座の茨木のり子の行事例

2019年11月9日、江戸川区
20年10月9日、渋谷区
21年12月22日、港区
22年11月6日、軽井沢町
22年11月17日、軽井沢町
22年11月23日、千代田区
23年6月12日、北区
24年2月17日、目黒区
24年6月15日、松戸市
24年9月21日、鎌倉市
24年12月21日、糸満市

第一部　茨木のり子と平和

うちなーぐちによる朗読

神田雪枝

『わんが一番ちゅらさたる時』

私が一番ちゅらさたる時
まちぇー　んじゃ　んじゃーとぅ　くじりてぴじゃん
あねー　あらん　とくるから
青さるぬ空　ねしがてぃちゃん

私が一番ちゅらさたる時
すばーふぃらーぬ　人達が多く　ぴらんなたん
工場ぴてぃ　海ぴてぃ名ーん　付ちぇーぴらん島ぴてぃ
私ねぇー美姿いしーぶさる　若さ一時ぬ肝ん失なたん

私が一番ちゅらさたる時
わんくとう　気に　掛きーる人たーん　ぴらんたん
男ぬちゃーや　敬礼しぬ　礼ーじしか　知らんた　しが
目笑し　出発っちいちゅたん

私が一番ちゅらさたる時
私ん頭ろぅー　ぬーぬくとうん　考げーららん
私ん肝やーくふぁぐふぁーとぅし
手足びけーじ　黒光ちゃいし　光とーたん

私が一番ちゅらさたる時
私国戦し負きたん

うぬようなくとうぬ　あてぃなゆみ
着物ぬ袖まくてぃ
さびさびーとうそーる町　ぬるん　とうるし歩っちゃん

私が一番ちゅらさたる時
ラジョーからージャズがゆうかかとうたん
止みとうたる煙ふち　目くらがんさがちー
私ねーゆす国ぬ　肝うやぎーる音楽楽しだん

私が一番ちゅうさたる時
私ねーいっぺーふしあわし
私ねーいっぺーちび口んあたらんなとうたん
私ねーいっぺーしからーさたん

やぐとう決みたん　ないるむんやれー長生ちすんち
年取てぃからいっぺー美さる　絵描ちゃる
フランスぬ　ルオーおじーぬぐどう
ね

『わたしが一番きれいだったとき』

わたしが一番きれいだったとき／街々はがらがら
崩れていって／とんでもないところから／青空な
んかが見えたりした
わたしが一番きれいだったとき／まわりの人達が
沢山死んだ／工場で　海で　名もない島で／わた
しはおしゃれのきっかけを落としてしまった

・・・

わたしが一番きれいだったとき／わたしはとても
ふしあわせ／わたしはとてもとんちんかん／わた
しはめっぽうさびしかった
だから決めた　できれば長生きすることに／年と
ってから凄く美しい絵を描いた／フランスのルオ
ー爺さんのように／ね

#神田雪枝

沖縄県生まれ。しまくとぅば朗読家。しまくとぅば普及センターに所属する普及員。担当分野は、普及員／読み聞かせ、普及相談員／啓発物等ツール作成、企業相談員／アナウンス役である。

茨木のり子の『わたしは一番きれいなとき』は、標準語で書かれているが、うちなんちゅの情感を込めて、神田雪枝が、うちなーぐちに翻訳して、かつ朗読。

『わたしが一番きれいだったとき』

女学校の教師が応召し、その後戦死た。そうした心情が詩になった。

茨木のり子
1943 年（昭和 18 年）
17 歳、
専門学校入学記念時。

#石川陽子

沖縄県伊平屋島出身。小学校から高校までを大阪で過ごす。祖母の経営する沖縄料理屋での、沖縄県人会の方々との交わりにより、沖縄の歌と三線を学び始める。その後、２０歳の時に本格的に学ぶことを決意し帰沖。琉球民謡協会師範の大城志津子氏に住込みで師事。現在は自身も琉球民謡協会教師の資格を持ち、アーティストとしての活動に加え、指導者としても県内外で精力的に活動中。

島唄＆三線　　石川陽子

『艦砲ぬ喰ぇー残さー』（艦砲の喰え残さ）　　比嘉恒敏 原作（関 洋 翻訳）

㈠ 若い時は戦争の世の中／若い花は咲くことが出来なかった／家もご先祖様も親兄弟も／艦砲射撃の的になり／着るもの食べるものも全くなかった／ソテツを食べて暮らしたよ／あなたもわたしも／君も僕も艦砲の食い残し

㈡ 神も仏も頼られない／畑は金網張られて銭にはならない／家は風が吹っ飛ばし戦果担いでしょっぴかれて／ひっくり返し返され弄ばれ／心は全く誠実だったのだがねえ

㈢ 泥の中から立ち上がって家庭を求めて妻をめとり／こどもも生まれて毎年産み次男三男とかたつむり（みたい）／苦労の中も子どもらの笑い声聞き心を求めて

㈣ 平和になってから何年か／子ども達も大きくなっているが射られたイノシシが我が子を思うように／潮が又くるのだと思っては／夜の夜中にねむれない

㈤ 私の親を食べたあの戦争／私の故郷を食べたあの艦砲射撃／生まれ変わっても忘れることができようか／誰があのようなことをしはじめたのか／恨んでも悔やんでも飽きたりない／子孫末代まで遺言したいねえ

弾き語り　　引田香織

『倚りかからず』　　茨木のり子

もはや／できあいの思想には倚りかかりたくない／もはや／できあいの宗教には倚りかかりたくない／もはや／できあいの学問には倚りかかりたくない／もはや／いかなる権威にも倚りかかりたくはない／ながく生きて／心底学んだのはそれぐらい／じぶんの耳目／じぶんの二本足のみで立っていて／なに不都合のことやある／／倚りかかるとすれば／それは／椅子の背もたれだけ

日本国憲法 前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであつて、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

#引田香織

１９８６年生まれ、福岡県出身のシンガーソングライター。２００５年「LOVELESS」ED曲「みちゆき」でデビュー。音楽療育や豪華客船での活動も経て、現在は子育てをしながら文学作品や憲法前文に曲をつけ歌う独自のスタイルでライブを展開中。今回は、茨木のり子の詩をピアノで弾き語りを披露する。

『生活の柄』　　山之口 貘

歩き疲れては、
夜空と陸との隙間にもぐり込んで寝たのである
草に埋もれて寝たのである
ところ構はず寝たのである
寝たのであるが
ねむれたのでもあつたのか！
このごろはねむれない
陸を敷いてはねむれない
夜空の下ではねむれない
揺り起されてはねむれない
この生活の柄が夏向きなのか！
寝たかとおもふと冷気にからかはれて
秋は、浮浪人のままではねれむれない。

山之口 貘
1903 年（明治 36）
～1963 年(昭和 38)
那覇区東町出身、
本名山口重三郎

弾き語り（つづき）　　引田香織

『自分の感受性くらい』　茨木のり子

ぱさぱさに乾いてゆく心を／ひとのせいにはするな／みずから水やりを怠っておいて／／気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失ったのはどちらなのか／／苛立つのを／近親のせいにはするな／なにもかも下手だったのはわたくし／／初心消えかかるのを／暮しのせいにはするな／そもそもが　ひよわな志にすぎなかった／／駄目なことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊厳の放棄／／自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ

朗読とトーク　　山川　建夫

『木の実』　茨木のり子

高い梢に／青い大きな果実が　ひとつ／現地の若者は　するする登り／手を伸ばそうとして転り落ちた／木の実と見えたのは／苔むした一個の髑髏（どくろ）である／／ミンダナオ島／二十六年の歳月／ジャングルのちっぽけな木の枝は／戦死した日本兵のどくろを／はずみで　ちょいと引掛けて／それが眼窩（がんか）であったか　鼻孔であったかはしらず／若く逞しい一本の木に／ぐんぐん成長していったのだ／／生前／この頭を／かけがえなく　いとおしいものとして／掻抱いた女が　きっと居たに違いない／／

小さな顳顬（こめかみ）のひよめきを／じっと視ていたのはどんな母／この髪に指からませて／やさしく引き寄せたのは　どんな女（ひと）／もし　それが　わたしだったら・・・／／絶句しそのまま一年の歳月は流れた／ふたたび草稿をとり出して／嵌めるべき終行　見出せず／さらに幾年かが　逝く／／もし　それが　わたしだったら／に続く一行を　遂に立たせられないまま

『それを選んだ』　茨木のり子

退屈きわまりないのが　平和
単調な単調なあけくれが　平和

生き方をそれぞれ工夫しなければならないのが　平和
男がなよなよしてくるのが　平和
女が溌剌としてくるのが　平和
好きな色の毛糸を好きなだけ買える
眩しさ！
ともすれば淀みそうになるものを
フレッシュに持ち続けてゆくのは　難しい
戦争をやるより　ずっと
見知らぬ者に魂を譲り渡すより　ずっと

けれど
わたくしたちは
それを
選んだ

#山川建夫

慶応大学卒業後、フジテレビ入社。モーニングショウ司会の後、１７年後退社。千葉県市原市に定住し、自然農業を２５年以上実践。フリー・アナウンサー＆司会業のほか、朗読講師＆執筆活動。

『四海波静』　茨木のり子

戦争責任を問われて／その人は言った／そういう言葉のアヤについて／文学方面はあまり研究していないので／お答えできかねます／思わず笑いが込みあげて／どす黒い笑い吐血のように／噴きあげては　止り　また噴きあげる／／

三歳の童子だって笑い出すだろう／文学研究果さねば　あばばばとも言えないとしたら／四つの島／笑ぎに　笑ぎて／どよもすか／三十年に一つのとてつもないブラック・ユーモア／／

野ざらしのどくろさえ／カタカタカタと笑ったのに／笑殺どころか／頼朝級の野次ひとつ飛ばず／どこへ行ったか散じたか落首狂歌のスピリット／四海波静かにて／黙々の薄気味わるい群衆と／後白河以来の帝王学／無音のままに貼りついて／ことしも耳すます除夜の鐘

『応召』　山之口獏

こんな夜更けに
誰が来て
のっくするのかと思ったが
これはいかにも
この世の姿
すっかりかあきい色になりすまして
すぐに立たねばならぬという
すぐに立たねばならぬという
この世の姿の
かあきい色である
おもえばそれはあたふたと
いつもの衣を脱ぎ棄てたか
あの世みたいにおっていた
お寺の人とは
見えないよ

第二部　平和と和平、その礎

平和談義　『食こそ平和への安全保障』

せやろがいおじさん

今年２０２５年に、日本では「米騒動」が大きな国民的出来事でした。そこで、この企画では、社会問題をユーモアをもって鋭く語り説く「お笑い芸人・せやろがいのおじさん」をお迎えし、『食こそ平和への安全保障』として、談義して頂きます。

戦争が起きると、まず深刻化するのが「食料の欠乏」です。戦地の兵士の多くが補給不足で命を落とし、国民もまた、戦火のもとで働けず、日常生活が失われてしまいます。内戦や紛争でも、食の安全は真っ先に揺らぎます。軍備や防衛の議論は武力だけに目が向きがちですが、実は〝食〟こそ、戦争を回避する力となり、いざという時に社会を守る基盤にもなるのではないかでしょうか。

今回のトークでは、そんな本質的な問いを、せやろがいおじさんらしい軽快さと熱量で、楽しく、そして心に響く形でどのように語っていただけるでしょうか、楽しみです。

平和シンポジウム　『永続平和のために』

コーディネータ　まーちゃん

この企画は、戦後８０年の節目に、平和についてあらためて考える機会として開催されます。第１部「茨木のり子の平和」も、第２部「平和と和平、その礎」も通して、まーちゃんが、総合司会として担当します。第１部は、茨木のり子の詩作による平和表現です。第２部は、「平和談義」、「平和シンポジウム」、「平和の伝播」の構成です。「平和シンポジウム」のコーディネータも、まーちゃんの担当です。

沖縄を拠点に社会問題を笑いで切り取ってきた まーちゃん は、シンポジウム全体を、力強く、そして温かな視点で導いてくださいます。まーちゃんは、米軍ヘリ墜落事故の報道格差に疑問を抱き、「米軍基地」を解消するまでを旗印に、沖縄の現実を笑いと批評の力で発信し続けてきた表現者です。その経験は、平和を語る場の進行にふさわしい説得力を持っています。

「平和シンポジウム」では、新聞・映画・ミュージアムという三つのメディアからの登壇者が集い、それぞれの立場で戦争・記憶・表現について意見を交わします。沖縄タイムスの當銘悠氏、琉球新報の滝本匠氏、対馬丸事件を映画『満天の星』として描いた寿大聡氏、そして対馬丸記念館の平良次子氏が登壇し、映像資料も交えながら議論を深めます。まーちゃんは、これら多様な視点を結び、会場全体にわかりやすく届けるコーディネーターとして、沖縄の今と平和の未来を見つめる場を丁寧に仕切ってくれることでしょう。

第２部の〆には、この行事の主宰者の青柳浩生が「平和の伝播」をパフォーマンス風に演出しますが、まーちゃん はじめ、出演者や参加者全員で、その波紋を広げましょう。

#せやろがいおじさん（本名、榎森耕助）

２００７年から、お笑いコンビ「リップサービス」のツッコミとして活動し、２０１７年から「せやろがいおじさん」として YouTube や Twitter への動画投稿を始めた。赤Ｔシャツ・赤ふんどし姿で社会問題に対しての問題提起を行う。Twitter フォロワーは約３０万人、YouTube「ワラしがみ」の登録者数は約３２万人。全国各地で講演を行う。２０２０年に、書籍『せやろがい！ではおさまらない―僕が今、伝えたいこと聞いてくれへんか？―』を発売し、Amazon のカテゴリランキング１位を獲得した。司会業のほか、朗読講師＆執筆活動。

#まーちゃん（小波津正光）

１９７４年那覇市生まれ。１９９３年に演芸集団ＦＥＣに入団し、漫才コンビ「ぽってかすー」として活動を始める。沖縄県内で活動した後、東京へ活動拠点を移す。２００４年、沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落した事故の県外メディアにおける扱われ方が沖縄と大きく違うことに怒りを感じ、理不尽な敵には笑いで闘えとの思いで、舞台「基地を笑え！お笑い米軍基地」を立ち上げる。お笑い米軍基地の企画・脚本・演出・制作総指揮として、毎年６月に新作ツアーを開催している。現在、沖縄県内にて舞台、テレビやラジオ、執筆活動など、多方面で活動中。

平和シンポジウム　『永続平和のために』（つづき）

新聞　（紙面から引用して紹介）

【沖縄タイムス】　**當銘　悠**

沖縄戦の激戦地だった糸満市真栄里の壕で、少なくとも7人分の戦没者遺骨とみられるものが見つかったこと　が7日分かった。掘り出した京都府のＮＰＯ法人「空援隊」によると、見つかったのは七つの頭蓋骨のほか、大腿（だいたい）骨や顎の骨など。二つの頭蓋骨は総入れ歯が一緒にあった。うち一つの頭蓋骨には銃弾が貫通したとみられる穴が開き、中に米軍の銃弾が残っていた。現時点で日本軍の武器は見当たらず、空援隊は民間人が含まれている可能性があるとみている。（社会部・當銘悠）

壕から発見された遺骨や遺留品とＮＰＯ法人「空援隊」のスタッフら＝7日、糸満市真栄里（宮城貴浩撮影）

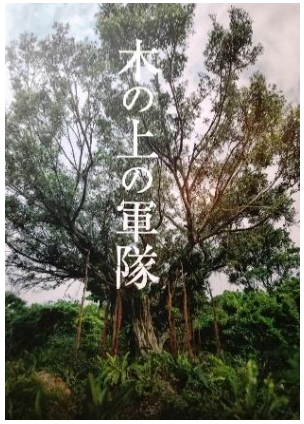
【琉球新報】　**滝本　匠**

沖縄戦を満洲事変から顧み、日中戦争や国策移民などへの関わりを掘り下げ、沖縄戦へつながる道を伝えた長期連載について「被害者だけでなく加害責任にも向き合う姿勢は、キャンペーンをより力強く、説得力のあるものにした」と指摘した。

【琉球新報にＪＣＪ賞】「加害責任」への姿勢に評価　沖縄戦８０年「新しい戦前にしない」報道

映画　**寿大　聡**

終戦から８０年。戦争体験者が少なくなってきました。映画は、戦争の無為を映像とストーリーで語り伝えることができます。昨年から沖縄での戦争に係わる映画が、４、５本作られました。『骨を掘る男』『戦雲』『満天の星』『木の上の軍隊』『宝島』など。ここでは、対馬丸事件を取り扱った『満天の星』を制作、監督、出演、上映に係わった寿大聡がプレゼンします。



#當銘　悠（沖縄タイムス社）

１９９４年那覇市生まれ。２０１８年入社。子ども新聞「ワラビー」班、運動部、北部報道部を経て２０２２年より社会部記者。「戦後８０年取材班」として、沖縄戦の取材を担当している。

#滝本　匠（琉球新報社）

大阪府出身。１９９８年琉球新報社入社。社会部、八重山支局（石垣市）政経部、東京報道部長などを歴任。ワシントン特派員や政経部では基地問題を担当。２０２４年８月から統合編集局長兼デジタル戦略統括。共著に「呪縛の行方」「沖縄ダークサイド」「沖縄フェイク（偽）の見破り方」「琉球新報が挑んだファクトチェック・フェイク監視」。

#寿大　聡（『満天の星』監督、俳優）

１９８１年２月１９日生まれ。埼玉県生まれ。無名塾出身で、三池崇史監督作品『地球兄弟』（２０１３年）に主演。同作品がローマ国際映画祭に選出され、三池監督とともに参加、レッドカーペットを歩く。その他数多くの映画やドラマ、舞台に出演。祖父の中野高男が対馬丸の甲板員とし乗船していて生還した出来事から、戦争の悲惨さ、愚かさを次の世代に伝えようと、祖父の証言を映画『満天の星』で自ら演じ表現。

第二部　平和と和平、その礎（つづき）

平和シンポジウム　『永続平和のために』

ミュージアム

対馬丸記念館

平良次子

母・啓子は、８０年前の１９４４年８月に米潜水艦の攻撃を受けて沈没した学童疎開船「対馬丸」の生存者でした。戦後、母は小学校教諭として平和教育に力を尽くし、退職後も「語り部」として自身の体験を語り続けてきました。対馬丸体験者としての母は、対馬丸記念館の語り部であったが、２０２３年７月２９日、８８歳で他界してしまいました。

娘・次子は、対馬丸館長として、今年６月、天皇陛下が皇后と長女とともにご一家での対馬丸記念館の訪問を迎え案内した。母は、２０１４年に同館を上皇が訪問されたときには面会されなかった。次子は、娘と館長の立場が重なり、心情は複雑さであったと察せられる。

対馬丸記念館には、命を落とした子どもたちの着装品や当時の学校用具が展示されている。さらに壁面には子どもたちの遺影が掲示されている。館内には、子どもたちの情魂とともに、未来に生きることの出来なかった無念さを参観者に訴える。「へいわ」「平和」の意味、戦争の無意味さも問う施設である。

今年、沖縄を訪ねた天皇は、「平和の尊さを心に刻み、平和への願いを新たにしていきたいと思います」と感想を述べられた。

▲写真　日テレ NEWS から引用
両陛下 愛子さま 戦後 80 年沖縄慰霊訪問の記録～受け継がれる慰霊への思い
https://www.youtube.com/watch?v=sU39Q9ZM3Mc&t=2616s

対馬丸（1661 人乗船、1944 年 8 月 22 日）

対馬丸記念館からの問いかけ

いま「対馬丸」を語ること、それは何でしょう？
戦争のこと？それとも平和？
本当に語って欲しいこと、それはいまそこにある
それぞれの「夢」のことです
暗くつらい戦時でも「夢」は持っていました
でも、生きていればこその「夢」
犠牲になった彼らの無くしてしまった「夢」
彼らが持っていたであろう未来への「夢」
その「夢の未来」に私たちは生きています
この館に身をおいたら、感じてみて下さい
そして、考えてみて下さい

#平良次子

沖縄県大宜味村生まれ。琉球大学法文学部卒業、その後渡米。沖縄県人材育成財団の派遣事業でインドネシアへ留学。南風原文化センターに設立時より関わり、学芸員として勤務。その後、同センター館長。沖縄インドネシア友好協会事務局長。現在、対馬丸記念館館長。

#対馬丸記念館

平成９年、海底８７０ｍに沈む対馬丸が発見され、それを引き上げる代わりに政府は対馬丸記念館を設立。対馬丸遺族会は財団法人対馬丸記念会となり、平成１６年対馬丸記念館が開館。その後、平成２５年公益財団法人対馬丸記念館として対馬丸事件犠牲者の悲惨な歴史とその教訓を風化させることなく伝えつつ、恒久平和の実現に向けて平和の発信を行っている。また全国の協力会員の支えと政府や県の補助金のもと、館の管理運営と対馬丸犠牲者の追悼、遺族の福祉の向上、平和の大切さの取り組みを行っている。

#対馬丸記念館の庭のガジュマル

チラシに使った写真は記念館のガジュマル。枝からの木漏れ陽は、平和の象徴と見立てて、その瞬間を撮影した。

渋楓座による茨木のり子の行事開催のまとめ

２０２４．１２．２１	茨木のり子２０２４冬	沖縄平和祈念資料館	http://www.kofuza.com/html/images/noriko1221flyer.pdf
２０２４．９．２１	茨木のり子２０２４秋	鎌倉生涯学習センター	http://www.kofuza.com/html/images/noriko921flyer.pdf
２０２４．６．１５	茨木のり子２０２４夏	松戸商工会議所	http://www.kofuza.com/html/images/noriko615flyer.pdf
２０２４．２．１７	茨木のり子２０２４春	中目黒トライ	http://www.kofuza.com/html/images/noriko217flyer_facehttp://www.kofuza.com/html/images/noriko217flyer_back_rev.jpg_rev.jpg http://www.kofuza.com/html/images/noriko217detail.pdf
２０２３．６．１２	茨木のり子＆金澤翔子 ベースのテーマ「いま二人の筆跡から学ぶこと」記念イベント	北とぴあ（北区）	http://www.kofuza.com/html/images/flyer612.pdf
２０２２．１１．２３	茨木のり子２０２２冬／対話	小日比谷図書文化館ホール（千代田区）	http://www.kofuza.com/html/images/noriko1123_face.pdf http://www.kofuza.com/html/images/noriko1123_back.pdf
２０２２．１１．１７	茨木のり子の献立帖のメニューから 防災食を味わう	旧軽井沢公民館 大会議室＆調理室	http://www.kofuza.com/html/images/karuizawa_1117.pdf
２０２２．１１．６	日本語を味わう―茨木のり子の詩作を題材として	くつかけテラス（中目黒）多目的室	http://www.kofuza.com/html/images/1106_face.pdf http://www.kofuza.com/html/images/1106_back.pdf
２０２１．１２．２２	茨木のり子２１２１冬／歳月	日仏文化協会汐留ホール（港区）	http://www.kofuza.com/html/images/noriko1222_face.jpg http://www.kofuza.com/html/images/noriko1222_back.jpg
２０２０．１０．９	茨木のり子２０２０秋／怒るときと許すとき	東京ウイメンズプラザ（渋谷区）	http://www.kofuza.com/html/images/face_rev.png http://www.kofuza.com/html/images/backback_final.pdf
２０１９．１１．９	茨木のり子２０１９秋／倚りかからず	タワーホール船堀（江戸川区）	http://www.kofuza.com/html/images/funahori.pdf
２０１９．１１．５	『倚りかからず』開催予告	荘内日報	https://www.facebook.com/groups/2518042215133523/posts/2556934047911006/

コラムなど

２０２３．３．２１	鶴岡と茨木のり子と鶴岡	文化通信第４１回	http://www.kofuza.com/images/bunka_41_321.pdf
２０２２．１１．２２	市茨木のり子の故郷／愛知県西尾	文化通信第３７回	http://www.kofuza.com/images/bunka_37_1122.pdf
２０２２．２．１	画茨木のり子からみる男女平等参／男女共同参画との関わり	茨木のり子六月の会、会報、第８７号	http://www.kofuza.com/html/images/6gatu_2022.pdf https://www.facebook.com/photo?fbid=4901292996624154&set=pcb.3207516112852793
２０２０．９．１４	「出来る状況づくり」と女性の力	文化通信第５回	http://www.kofuza.com/images/bunka_5_0914.pdf
２０１５．１．２６	茨木のり子のメッセージ	新エネルギー新聞、第１８号	http://www.kofuza.com/images/nen_18.pdf

ユーチューブ（YouTube）

２０２３．６．１２	北とぴあ 写真ダイジェスト版		https://www.youtube.com/watch?v=WKCYtNaqa_U
２０２２．１２．２９	茨木のり子２０２２秋／対話		https://www.youtube.com/watch?v=b8xNtpLW-eE

Facebookサイト

２０２２．１１．１３	茨木のり子「言の実」の会		https://www.facebook.com/groups/1017829096275726
２０１９．９．１６	江戸川茨木のり子の会		https://www.facebook.com/groups/2518042215133523